「 地震と油断を考える」

日本のスペイン風邪の被害状況は、内務省衛生局の資料で 1918 年 8 月から 1921 年 7 月までのおよそ 3 年間で患者数 23,804,673 人、死亡者数 388,727 人となって流行は 3 回でした。

また、新型コロナウイスは、厚労省のまとめによると 2023 年 3 月 23 日現在で感染者数 33,398,536 人、死亡者数 73,632 人で現在の流行は 8 波となり収束に向かっている様に見えます。

そして、9 波が来るのかどうかは不明で、何故、流行・波等周期があるのかも未解明です。

私の知識不足を反省しつつもまさかここまで流行が繰返されて感染が拡大するは思いませんでした。

一方、地震にまさかはありません、残念ですが過去の歴史が示す様に確実に起きます。

内閣府の発表では、南海トラフ巨大地震と同様に首都圏直下型巨大地震が 30 年以内に 70％の確率で起きるとされています。

起きるのは分かっているので、地震発生前と発生時そして発生後にどのような行動をとるべきなのかが重要なのは言うまでも有りません。

『東京都の新たな被害想定　令和 4(2022)年 5 月 25 日-東京都防災会議』の被害想定は衝撃的で、異なる地震の発生場所毎の建物被害や死者数を想定しています。

加えて、地震発生直後から 1 ヶ月以後程度までの時系列で避難所・自宅・帰宅困難等の状況に応じた被害の様相や防災、減災対策による被害軽減効果が具体的に示されています。

首都圏他も建物の耐震化が進んでいますが不十分な建物も多く存在しています。

加えて、密集した市街地も多く、救助・救援活動も滞る事が想定されています。

耐震マンションに住んでいる人でも市中で被災する事もあります。

被害想定は、想定ではなく事実となるものと考え、対策・対応をすることが望ましいと思います。

阪神淡路大震災(1995.1.17)で発生した火災による被害状況は言葉を失うものでした。

そして、人は、これらの被害想定、死者数に自分が入るかもしれないと考える人はどれほどいるのでしょうか。もちろん、それを考えることは苦しく受け入れがたい事です。

とにかく、地震発生時は身を守る事を最優先し、その後は余震にも備えて安全な場所に避難をする事が第一です。

しかし、その後のガス、電気、水道、交通機関等のライフラインの復旧も確認作業を含めると長期化することが予想されています。

加えて、社会生活を営む上で必要なインフラにも大きなダメージを受けることになります。

考えなければならないことは数え切れずありますが、日々巨大地震を自分事と考えて油断をせずに過ごしていきたいと思います。

2023 年 3 月 31 日

LRRI 理事　岡本 昌弘